

うまく行けば4化が出るかもしれないぞ、と虫のいいことを考えていた。だがなかなかその機会がなく何とか確かめて見たいものと、毎年9月には網をかついでコムラサキ採りに出かけていた。たまたま採れてもなばかりであったが、1977年9月20日の朝、出勤途中自宅のイチジクの腐果にコムラサキがとまっていた。あわててネットを取りに帰り採集する。ネットより出して見ると待望の早であった。腐果といっしょに飼育箱に入れておく。夜帰宅してからが大変だ。新鮮な個体であるが腹部のふくらみが少し小さいのが気になる。うまく卵を産んでくれよと念じつ、給餌を(ハチミツを水でうすめたもの)与え、夜は蛍光灯で暖めたりしたがなかなか産んでくれない。10月24日の夜シグレヤナギの葉をもみほぐしてネット内に入れて見る。入れて2時間程(21時頃)してやっと産卵を始めた。25日夜迄に22卵産んだ。後はフ化を待つばかりである。29日から30日にかけてフ化する。フ化したのは15頭である。3化の早からも有精卵が得られることがこれで分かった。1頭づつシャーレに入れ番号をつけ、シグレヤナギで飼育を始める。室内での飼育であるが温度が気になる。各個体の飼育中の経過は夏型とあまり違わないので詳細は省くが、各令の日数は長いので表に現す。

2令で越冬に入りかける個体、No8. 13. 14.

3令で越冬に入りかける個体、No5.

4令で越冬に入りかける個体、No2. 6. 11.

中には餌を食べ続ける個体もあった。

日数の多くかかっている(各令○卵のもの)のは、令期間中に2日~3日の餌を食べない日があった。

温度(日中は20℃前後)も高く餌も多くあるのでまた食べ続けたと思われる。

夏型の飼育日数は30日前後であるが、今回は41日~47日もかかっている。これは途中で餌を食べない日があっただけでなく、1令の日数が特に長くかかっている。15頭中蛹まで育った個体は6頭であるが、蛹化後2日目ぐらいより薄紫色に変色して全蛹死亡した。

飼育失敗の記録であるが私にとっては得る所が多くあった。その一つは3化の早からも有精卵が得られたこと。又自然状態では3化よりフ化した幼虫も2令か3令で越冬に入ると推定出来たことなどである。しかし、疑問点も多く出て来た。全蛹が羽化出来なかったのはなぜだろうか?。温度が低かったのか(11月10日より気温が急に下っている室内で日中11℃、夜間7℃)それとも食樹のシグレヤナギの葉に羽化するだけの栄養が無かったのかもしれない。

1974年9月中旬にフ化した高知県産のクロコノマチ

ヨウを飼育したことがある(クロコノマチヨウとコムラサキでは生態も根本的に違う)が3頭の幼虫に黄色く成りかけた稲の葉ばかりを与えて羽化させたことがある(ふた回り程小さいが2♀羽化した)。クロコノマチは自然状態でも年内に羽化するが、ほとんど栄養もないと思われる。黄色くなった稲の葉と、落葉前とは言えまだ青々としたシグレヤナギの葉とどれだけの違いがあるのだろうか?。

10月下旬頃より温度を高くしてやれば羽化するのではと思われる。

色々疑問点も残ったが飼育方法も工夫し次の機会にはぜひ4化を羽化させたいものである。

編集後記

「ひろおび」No.1~No.3は、兵庫県産蝶類の分布調査の基礎資料として、会員諸氏から採集データを提供いただき、それを集計して発行して参りましたが、その後数年間の調査によって数多くの知見が得られ、会員諸氏の間にNo.4発行の気運が盛り上ったので、この度装いを新たにNo.4を発行する運びとなりました。

No.4発行に際しては予想以上の経費がかさみ、会員諸氏から臨時徴収をするという事態を招き、係と致しましては心苦しく思っております。

本会は、会の規定により会員は今後増員しないといふかつてない封鎖的な会でもあります。会員以外の方々にもできるだけ広く会員の活動を報じたく、この度の発行となりました。

また、本会は会員数が少ないため、会誌発行に際し会員にかかる負担が大きく、この経費に充当したく、この度は東京通販サービス社のネットを通して販売していただくことになりました。(係)

バックナンバー

「ひろおび」No.1. 兵庫県に於ける蝶類の分布と採集記録(その1) アゲハチョウ科

「ひろおび」No.2. 兵庫県に於ける蝶類の分布と採集記録(その2) タテハチョウ科、ジャノメチョウ科、マダラチョウ科、テングチョウ科、ウラギンシジミ科。

「ひろおび」No.3. 兵庫県に於ける蝶類の分布と採集記録(その3) シジミチョウ科、セセリチョウ科。

以上会員諸氏から提出のあった採集記録を集計したもので、今後の調査の基礎資料として発行。

No.1~No.3まで残部は0となっておりますので御了承下さい。(No.1~No.3は非売品)